

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月14日 NO.43 (343)



- 花ちゃん 「モンタ博士！2-2と3-2のオジギソウのお花が咲きました。」
- モンタ博士 「本当ですか。うれしいな。夏休み前にあげた、あのオジギソウですね。」
- 花ちゃん 「そうなんです。夏休みの間も、水をしっかりやっていたら、花が咲いたそうなんです。とってもかわいくてきれいなお花だそうです。」
- モンタ博士 「ほほー。それはよかったね。どれどれ、どんなお花かみんなで見に行こう。」
- オー君 「うわー！ピンクのきれいなお花ですね。」
- 花ちゃん 「花びらというのは見えないですね。」
- モンタ博士 「そのとおりだね。うすいピンク色の花は、おしべだね。オジギソウの花は、たくさんのおしべがつき出ているんだね。あ！そうだ。このオジギソウによく似た花が国立七小のある所でたくさん見られるよ。」
- オー君 「え！どこ、どこ、どこに見られるんですか。」
- 花ちゃん 「あ！わかった。モンタ博士がいう『よく似た花』というのは、ネムノキのことですね。」
- モンタ博士 「ピンポン。そのとおりだね。右のページにあるから見てごらん。」

ネムノキはモンタ博士も大好きな花さ。学校のネムノキは、6月ころから9月ころまで咲いているんだ。とても花の時期が長くて、花も大きいので、みんなで見てほしいね。
詳しくは、国立七小のホームページ



ページを見るといいよ。『ヤフー』でも『グーグル』でもいいから、『国立第一七小学校』と打ち込んで、けんさくしましょう。トップページから『国立てくてく』→平成25年度→NO.21・・・と見るといいでしょう。」

オー君 「よーし。こんど見てみます。」

モンタ博士「ネムノキの花は、夕方から咲きはじめ、つぎの日の昼ごろまで咲きつづけるんだ。繊細な感じのおしべだけがよく自立つ花なんだよ。」

花ちゃん 「作家の壺井栄さん（名作『二十四の瞳』の作者）という人は、『桃色の絹糸をたばねて切りそろえたようなかれんな姿』といったそうです。また、松尾芭蕉は、『呉国（古い中国）でもとてもきれいといわれた西施という人』にたとえたそうです。また、英名では、『シルク・ツリー』ともいわれているそうです。」

モンタ博士「へえー。今日の花ちゃんは物知りだね。おどろいたな。すごいね。感心。」

オジギソウやネムノキはどうして葉っぱが動くのか？（小学生には少し難しい内容です）

オジギソウやネムノキ、さらにクズなどのマメ科植物の小葉の付け根には、「葉枕」（ようちん）という膨れた部分があります。葉枕は、細胞間隙の多い柔細胞と運動細胞とからなっていて、葉枕上部の細胞に比べると、下部の細胞は細胞壁が薄くなっています。太陽光線の強弱によって、運動細胞の中のカリウムを含む液体が細胞間隙に流れ出し、そのため、運動細胞の膨圧は低くなり、また、下部の細胞壁が薄いために、葉柄は下向きに垂れ下がるのです。

オジギソウでは、睡眠運動の他に、「傾震（傾震性膨圧）運動」もします。こえは、葉などに触れたり振動を与えたりすると、瞬間的に葉を閉じて、葉柄を下垂させる運動の事です。その仕組みは、睡眠運動と同じく、葉柄や小葉の基部にある葉枕内の運動細胞の膨圧の変化によっています。

